

オーナー制度取り入れ 自然を満喫



「天空の隠れ里」と称される榎谷棚田(大洲市戒川)で6月1日、お田植え祭が行われました。市内外からオーナーやお手伝い隊など約90人が参加。初夏の自然を満喫しました。

同地区の「榎谷棚田保存会」は、地域内外の有志やJA、大洲農業高校と一緒に5年前から棚田の保全維持活動を通じて交流を深めています。

当JA営農部も参加し、昼食後には「エコラプスイカ」を提供。田植えの疲れを癒していただきました。10月には収穫祭が行われる予定です。

農のうらライフ LIFE

私たち作物班は榎谷棚田保存活動に参加しており、6月1日(土)には田植えを行いました。

棚田での田植えは去年も参加しており、楽しみにしていました。棚田は、大小さまざまな形をしており、1枚1枚表情が違います。狭いところは機械が入りません。そのため、1本1本手作業で植えていかなければなりません。機械と違って手植えは、苗同士の間隔が狭くなったり、広くなったりと大変でした。しかし少しずつ慣れていき、終わるころにはきれいに植えることができるようになりました。田植えが終わった棚田を見下ろすと、キラキラと水

田全体が輝いてとてもきれいでした。保存会の方が、この棚田を守らないといけないと考えている理由がよくわかったような気がしました。

保存会の方の高齢化により、棚田の維持が年々難しくなっているというお話を伺いました。私は、このよき日本の原風景の一つがずっと続くようにできる限りお手伝いをしていきたいです。秋の実りが楽しみです。

大洲農業高校
生産科学科3年
松岡 菜津希さん

